

2008年3月1日

# 印旛普及だより

## 第12号

〒285-0026 佐倉市錦木仲田町8-1 TEL:043-483-1130 FAX:043-485-9502  
ホームページアドレス <http://www.agri.pref.chiba.lg.jp/apcenter/inba/>  
発行：印旛農林振興センター振興普及部改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

トマト黄化葉巻病および  
スイカの急性萎凋症対策

印旛管内ではトマト・スイカの作付けが多い中、トマト黄化葉巻病やスイカの収穫直前の萎れが問題になっています。これらの対策を考えるため、十二月十九日八街市総合保健福祉センターを会場に、研修会を開催しました。参加者は百二十五名を超え関心の高さが伺えました。

### 一 トマト黄化葉巻病について

① 当管内では半数以上の農家で発生しており、ほとんど被害程度が5%未満ですが、生育初期の感染で、被害が大きくなったケースもあります。

② 十一年前から対策を講じている静岡県の実例では、防虫ネット(0.4mm)の設置・ハウス周辺の除草・地域一斉除草剤散布・家庭菜園への協力要請を基本に実施しています。現在も同様の対策で

大きな被害を回避できている  
とのことです。

### 二 スイカ急性萎凋症について

① 当管内では急性萎凋症の原因の七割はホモプシス根腐病でクロルピクリンの消毒は有効です。

② 神奈川県三浦市の事例では、とうがんと夏夏の太陽熱消毒(トンネル密閉期間一ヶ月以上、地下30cmで35℃以上とする)で回避しています。

③ 大産地である熊本では、6月出しの割合が増え、地域との競合度合いが増しています。そこで地温が15℃を確保できる時期(3月頃)に定植を遅くすることで、発病を低下させることと共に熊本との競合も回避することが出来ます。出荷時期の検討を組織で行なうことも大切です。

④ 菌による土壌汚染程度を上

げないためスイカを休作し  
他の作物の作付や土壌水分・着果位置(3番花)など総合的改善も重要なことです。

地域の主力品目であるスイカ・トマトの課題解決をこれらの事例や提案をふまえて、組織で取り組んでいくことが必要です。次年度以降も展示ほの設置、農家からの情報収集などにより、その対策に取り組んで行きます。



熱心に受講するスイカ・トマト生産農家

## 印旛地域いきいき

### 水田農業研修会

「売れる印旛の米作りを考える」

12月20日、印旛合同庁舎を会場に「印旛地域いきいき水田農業研修会」を開催しました。印旛地域の米生産者をはじめ約百名が参加し、米の販売戦略と栽培技術の向上を目的に、研修と情報交換を行いました。販売戦略については株式会社スズノブの西嶋社長に、栽培技術については千葉県農業総合研究センターの吉野研究員を講師に実施しました。

#### 一 米のブランド化について

①各地で取り組んだブランド化プロジェクト事例について紹介されました。

②産地の特徴をよく理解し、それを生かした米作りをする。共に、販売した米に対する消費者の反応・評価を分析し、次年度の栽培に生かすことが

重要です。

#### 二 美味しい米を作るには

① 美味しい米の特徴は、タンパク質含有率が低く、粒が大きく、白未熟粒が少ないことです。

② 外観品質と食味を両立させるためには「ふさおとめ」は出穂前25～18日が、「コシヒカリ」は出穂前18～10日が穂肥施用適期です。

参加者からは様々な意見・質問が出され売れる米作りについて活発な議論がなされました。この研修会を機に、各地域で新たな取り組みがなされることと期待致します。



熱心に聴講する水稻農家

「知っていますか？ヘアリーベッチー緑肥作物の新たな利用による農地の管理」

近年、ちばエコ農業をはじめ環境保全型農業への取り組みが進む中、緑肥作物についても新たな取り組みがなされています。ここではヘアリーベッチを代表として紹介します。

ヘアリーベッチはマメ科牧草で、播種後一般的な雑草よりも早く圃場表面を覆い抑草します。その後50～70cmまで生長しますが、夏期の高湿多湿により自然に枯死します。このため残渣が地表面を覆いさらに雑草の発生を抑えます。この性質を利用して、省力的な農地の管理手段として利用されている事例（茨城県）もあります。また管内においても、一部で導入されています（写真）。

この他、一例として表一に緑肥作物を紹介します。参考としてご利用下さい。

表1 緑肥作物の紹介

	主な効果	栽培方法(例)
ヘアリーベッチ	土づくり(窒素固定) アレロパシー効果による雑草の抑制 農地の省力的維持管理	9月中旬～11月中旬播種 播種量3～5kg/10a 播種後60日以降からすき込み(利用目的による)
クロタリア	土づくり(窒素固定) 各種センチュウの抑制 景観作物(黄色い花)	6月中旬～7月中旬播種 播種量6～9kg/10a 草丈1～1.5mですき込み
クリムソンクローバ	土づくり(窒素固定) 景観作物(赤い花) ネギの品質向上(ネギ前作に栽培)	9月中旬～10月中旬播種 播種量2～3kg/10a 開花期にすき込み



ヘアリーベッチ

## 印旛の特産物を使った加工品

### 一 栄町特産黒大豆「どらまめ」

#### から焼酎「どらむすこ」誕生

栄町では、一九九八年から黒大豆の栽培が始まり、現在22haで栽培されています。生産された黒大豆は、地元竜神伝説をもとに、「ドラゴンの豆」↓「どらまめ」と命名、栄町の特産物として定着しています。

「どらまめ」の生産者有志で組織する「黒大豆研究会」が考案し、PRと地域農業の活性化のため、黒大豆を原料に特製焼酎「どらむすこ」を作りました。

昨年十月に販売したところ、くせがなくて飲みやすいと評判で、品切れとなっています。現在追加生産中で、製品ができ次第い町内の酒販店、飲食店及び成田山参道藤屋で販売されます。



### 二 成田市特産のサツマイモを干し芋に「甘芋ん(あま〜いもん)」

成田市農協では、さつまいも新品种「クイックスイート」を原料にした干し芋「甘芋ん(あま〜いもん)」を、昨年十一月から製造・販売しています。

青果用でありながら干し芋にも適する「クイックスイート」の品種特性と、農協直営の加工センターの技術により、従来の干し芋に比べて色が鮮やかで軟らかい食感に仕上がっています。



平成19年11月商標登録

「甘芋ん(あま〜いもん)」は成田市農協の直売所やAコープ成田店をはじめ、近隣の道の駅などで販売しています。一袋二〇〇g入りで、贈答用に化粧箱も用意されています。

### 生産技術・経営管理技術を磨く青年農業者

#### 一 印旛地域青年農業者会議

平成十九年十二月五日経営体育成セミナーの一環として印旛合同庁舎で開催しました。

内容は、自分自身の体験を通じての考えをまとめた「農業青年の主張」と、農業経営の諸課題を解決するために取組んだ「プロジェクト発表」、今年から行われた



「我が家の経営改善計画発表表」を行いました。合計46名の活動報告が資料にまとめられ、当日発表された中から厳正な審査の結果、農業青年の主張部門では富里市の津田乃梨子さん、プロジェクト発表部門では栄町の浅倉忠邦さん

ん・川崎重克さん(共同作成)、我が家の経営改善計画部門では成田市の湯浅恵介さんが最優秀賞を受賞し、印旛地区の代表として二月に行われた県大会に参加しました。

#### 二 千葉県青年農業者会議

県青年農業者会議の結果を受けて記述する。(開催日が2月6日であるので業者との最終修正に間に合うと思うので業者に依頼します。)

### 新規受講生を募集しています!

二十年度の経営体育成セミナーは五月開講の予定です。例年と同様に基本研修・専門研修・総合研修の3コースで研修を行います。

新規就農される方等で、興味のある方は農林振興センターまで問い合わせ下さい。

新しく認証された農業士・林業士・指導農業士のご紹介

農業士・林業士は地域農林業のリーダーとして、指導農業士はこれに加え後継者育成に今後一層のご活躍が期待される方を知事が認証するものです。

新規認証者のプロフィール

☆ 農業士

① 佐藤 慎一 氏(四街道市)  
父と弟と共にイチゴを中心にいろいろな野菜を直売、麦作機械利用組合のオペレーターとして活躍。



☆ 林業士

① 山出 祐司 氏(成田市)  
県林業研究会香取支部副支部長。有用広葉樹などを導入した長伐期優良材生産を実践。



☆ 指導農業士

① 小山 文子 氏(八街市)  
全国女性農業経営者の会理事。ニンジン、ジャガイモ等露地野菜経営。



② 加藤 康一 氏(八街市)

グリーンやちまた園芸部スイカ部長。スイカ、トマトを主体とした野菜経営。



③ 海老原 進 氏(白井市)  
平塚野菜組合長。各種特別栽培野菜を生産、販売。



④ 船津 守 氏(四街道市)

現在、四街道市農業委員会会長。シクラメンを中心とした鉢花生産とマツト植物にも取り組む。



美しいちばの森林(もり)づくり

木材価格が厳しい状況の中で、本県の森林は開発による量の減少、管理の放棄による質の低下が進んでいます。一方森林は、地球温暖化の大きな原因となっている二酸化炭素を大量に吸収する機能を持つなど、環境保全にも貢献できる県民の貴重な資源、財産と考えています。

美しい森林づくり条例化を検討  
千葉の美しい森林(もり)を蘇らせ、次代に引き継ぐため、千葉県では県民総てが支える新たな森林づくりの理念等を示す条例の制定を検討しています。

新しい森林づくりの社会システムを構築し、地域と市町村が主体となった美しい森林づくりを目指します。

森林づくりに必要なコスト負担や県民総ての参加、その仕組みづくりのため、協力をお願いします。

各地域でのみなさんのご活躍を期待します。